

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

## 平成26年度病害虫防除情報第9号

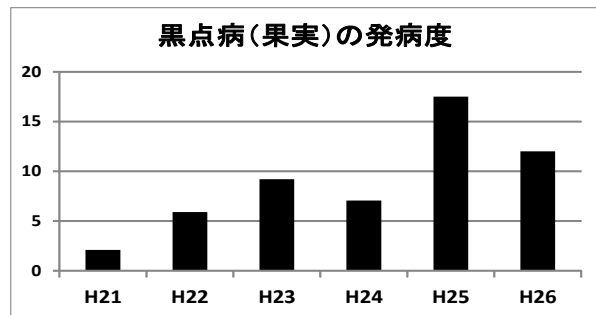
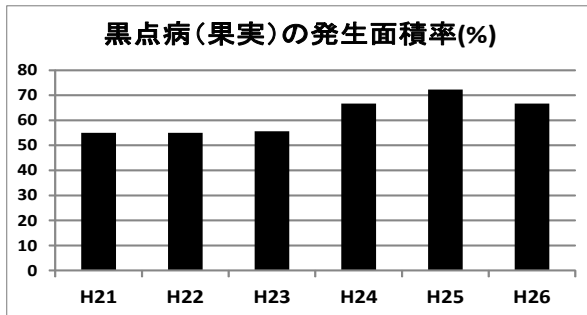
かんきつ黒点病の発生状況と翌年に向けての防除についてお知らせします。  
各地域の発生状況に応じて適切な防除指導をお願いします。

### かんきつの黒点病の発生量が多くなっています。 翌年に向けて適切な管理に努めてください。

- 1 作物名           かんきつ
- 2 病害虫名       黒点病

#### 3 発生状況（経過）

- 1) 平成21年から平成26年までの巡回調査（10月）の結果、平成25年は発生面積率、発病度ともに多発しており、引き続き平成26年も多い傾向であった。
- 2) 越冬病菌が残っている園地では、次年度の発芽期に伝染が始まるため、更なる被害拡大が懸念される。



#### 4 本病菌の生態

- 1) 本病菌 (*Diaporthe citri*) は枯れ枝上で越冬し、翌年春好適な温湿度条件（適温20度前後）になると降雨によって拡散し、若葉、新梢、果実に感染する。
- 2) 伝染源は保菌した枯れ枝であり、地上に落ちている枝も伝染源となる。一度菌糸が蔓延すると3年ほど生存し、降雨のたびに伝染源となる。
- 3) 風通しが悪く、降った雨が乾きにくい場所で発生が多い。

#### 5 防除上の注意

- 1) 枯れ枝処理が重要なので、枯れ枝の剪定・除去（園外へ持ち出し）を行い、伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。
- 2) 剪定作業の際は、薬剤が樹幹内部に十分かかるように考慮する。また、降雨の際の水滴が早く乾きやすいように、樹幹内部に光線が入ること及び風通しを良くすることを心掛け、本病が感染しにくい条件を作る。
- 3) 剪定した枝を粉砕機等で粉砕し、有機物として園地内に還元する場合は、枝の長さが30mm以下だと子のう殻の形成が見られないので、細かく粉砕し速やかに腐熟するようにする。
- 4) 降雨によって発生が助長されるので、6月～8月に行う薬剤防除の際は、降雨前の薬剤散布を徹底する。降雨がなく、晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。
- 5) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が250mmを超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の30日後には次の防除が必要である。

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 若杉  
TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-2127  
ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>  
E-mail : [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)